

## Ⅱ 民主党政権の重大な問題をただす日本共産党Ⅱ

### 「近所のみなさん、日本共産党です。」

朝晩の寒さが厳しくなりました。誰もが暖かく健康に過ごせるように、心から願わずにはいられません。

今日は、このかんの国会審議を通して明らかになった、民主党政権の問題点について、ごいっしょに考えたいと思います。しばらくのご協力を、よろしく願います。

**みなさん。**

日本共産党は、民主党政権に対して、「建設的な野党」として、「よいことには賛成し、協力する」と同時に、**国民のみなさんの不安や批判に心を寄せて、「悪いことには反対する」**、とりわけ「問題点はただす」ことを、**約束してきました。**

**このかんの審議を通して、明らかにになったのは、民主党政権には、暮らしや米軍基地、政治とお金、国会運営などの面で、重大な問題点があるということ**です。

暮らしの問題では、七十五歳という年齢で医療を差別する、後期高齢者医療制度について、「新しい制度」ができるまでは、**撤廃を先送りする**という立場が表明されたのは、重大です。

昨年参議院で、民主党を含む野党四党が、**廃止法案を共同で通した**ときには、民主党自身が、「いったん元にもどすことが重要」、「もどした上で旧老人保健法制度の問題点を是正する」と言っていました。ところが、民主党政権ができるやいなや、**百八十度の転換**です。「混乱を生じてはいけない」というのが理由ですが、**高齢者を差別するしくみ自体が、「混乱」の大本にある**のですから、**廃止するのが一番よいのではない**でしょうか。

後期高齢者医療制度の廃止を求める署名運動を広げて、政治を前に進めようではありませんか。

**「近所のみなさん。」**

沖繩の米軍海兵隊・普天間基地問題では、どうでしょうか。

日本共産党は、新政権が、「**県外・国外移設が望ましい**」という自らの公約と、「**県内たらい回しは許さない**」という、**沖繩県民の強い意思に従うこと、アメリカと本腰を入れた交渉を行うこと**を強く求めました。

ところが、岡田外相は「**県外**」移設は公約ではない」と言い出し、鳩山首相は、**県内移設を**求める岡田外相の発言を、「**公約の範囲の中だ**」と**言い出しました。**

首相は、党首として、公開のテレビ討論で、「**県外、国外**」と**明言したはず**です。この公約に**反する発言を放置**したり、擁護したりするのは、**国民を愚弄する無責任**のものではないでしょうか。

**米海兵隊の普天間基地は、沖繩の宜野湾市のまん中**にあつて、市の面積の**25%**を占めるほどの広さを持つ基地です。基地のまわりに、住宅や公共施設、保育施設などがあるにもかかわらず、年間**4万5000回**以上も、**米軍ヘリの危険な離着陸**が行われています。

**アメリカの安全基準に従えば、絶対**にあつてはならないことが、**沖繩で強行**されています。「**対等な日米関係**」といいながら、**本腰**を入れた**対米交渉**ができなければ、**旧来の従属外交**と変わらないのではないのでしょうか。沖繩県民と連帯して、**普天間基地の無条件撤去・国外移設**を求めていこうではありませんか。

**「近所のみなさん。」**

民主党の小沢幹事長が中心になって進めようとしている、「**国会改革**」はどうでしょうか。「**官僚答弁の禁止**」つまり、**政府の役人が国会質問に答える**のを、法律で禁止する動きがあります。これは、国会が、**国民を代表して、憲法に規定された「国政調査権」と「行政監督権」**を行使する上で、**大きな障害物になる**のではないのでしょうか。

しかも、内閣法制局長官の国会答弁まで、**禁止しよう**というのは、**極めて重大**です。憲法解釈について、今までの答弁に縛られることなく、**変えていこう**という**ねらい**が見え見えだからです。憲法九条のもとでも海外で「**武力行使**」ができる道をひらこうという、**黒い計画**をやめさせるために、**力を合わせよう**ではありませんか。国会と国民を結ぶ「**しんぶん赤旗**」を**購読**下さい。